

# 菅生学園報

第20号 2026年 新年号



## 理事長メッセージ

＝ 汝のパンを水の上に投ぜよ ＝



理事長  
島田 幸成

昨年は、大変お世話になり関係各位に御礼申し上げます。本年は午年です。午は、活力・行動力・前進・飛躍を象徴し、新しい挑戦や物事が大きく発展するのに良いとされる年です。菅生学園もこれに習いさらに発展できればと思います。本年もどうぞよろしくお願い致します。

さて、私は昨年11月末に中央アジア、キルギス共和国に行って参りましたので、その報告も兼ねて、キルギスとの交流の経緯について取り上げたいと思います。キルギスとは2020年東京オリンピックの際に羽村市がキルギスのチームを受け入れたことから縁もあり、コロナ禍が開けた2024年にはキルギス教育関係者15人が菅生学園や羽村市立学校などを視察しました。

キルギスの教育関係者は、日本の教育に深く関心を持っています。今や世界的にも使われている言葉「Tokkatsu (トッカツ)」はそのなかでも関心のあるテーマだそうです。日本の学校における、「特別活動」、例えば、HR活動、生徒会活動、委員会活動、炊事当番、お掃除、クラブ活動、行事(運動会、文化祭)などは、日本の学校文化の中で発展してきた独自の教育活動です。こうした活動は日本人の国民性、例えば、礼儀正しいとか、他者を敬い、協調性を大切にする、災害時お互いに助け合う、などにも影響を与えていると言われます。また、先生同士が授業を公開し合い、授業を改善していく「研究授業」も、キルギスではあまり行われていません。こうした、日本独自の教育活動にキルギスの方々は、大変興味を持っています。加えて、キルギスは長年、ソビエト連邦に属し、ソビエトの教育制度に従っていましたが、独立後は、独自の教育を確立すべく模索しています。こうした流れもあり、日本を訪れたのです。

そして、2024年に来園した時に、今後も是非交流を継続したいとのことでありました。また、機会があれば一度キルギスにも来てほしいということだったので、「百聞は一見に如かず」、今回私はキルギスを訪問することにしました。

キルギスはかつてシルクロードで栄えたように、地政学上の重要な所であったり、「アジアのスイス」と呼ばれるよう、天山山脈など7,000mを越える高い山々に囲まれた自然豊かなところであったり、遊牧民族独特の伝統文化を持つ国民性であったり素晴らしいところが多々ありました。また、訪れた首都ビシュケク市民の暮らしを見ると、渋滞、公害、ゴミ処理など、都市インフラが整っていないことによる課題もありましたが、人口増加により高層マンションが次々に建設されるなど活気にあふれ、今後は益々発展していく国という印象でした。中央アジアはレアアース(特にカザフスタン)なども採れて、日本も関係を深めていくため、昨年末に中央アジア首脳が日本の高市総理大臣を訪問するなど、外交的な動きも出ています。

東海大学創設者の松前重義博士は、「汝のパンを水の上に投ぜよ。多くの日の後、汝再びこれを得ん」という言葉を残しています。我々のノウハウが、役に立つのなら是非、手をさしのべることは大事だと思います。それが、将来、何かの形でかえってくるのでは、と考えています。

菅生学園では、様々な国々との交流を重ねてきています。これまで、オーストラリア、アメリカ、カナダ、ヨーロッパの国々との交流を行っていますが、これからは、アジアの国々との関係構築も重要です。本年度より特進PBLコースはインドネシアバリ島、医学難関コースはマレーシアクアラルンプールを訪問しています。菅生学園では、教育活動を通じて、こうした国々の皆さんと交流を大事にしつつ、平和で友好的な国際社会を希求していきたいと思っています。



ブラナの塔  
バックはカザフスタンの山々



キルギス大統領府付属学校を訪問



生徒の歌やダンスで歓迎を受ける



中央アジア最大級の市場オシュバザール

# 学園トピック (1) 永年勤続表彰

今年、東海大学菅生高等学校の染谷博文先生と百瀬由美子先生が永年勤続（30年）で表彰されました。理事長室において表彰式が行われ、理事長から表彰状、記念品が贈られました。お2人に感想や学園での思い出についてうかがいました。



## 百瀬 由美子先生

### ①感想

今まで色々なことがありましたが、ここまで必死に突っ走って参りました。この度表彰されることになり「もう30年も経ったんだ…」という思いです。中等部創立1年目から中等部で11年間務め、中等部・高校の授業を持ちながら養護教諭など様々な役割も担い、その後高校に異動しました。

### ②学園の思い出

大学卒業後、菅生学園に来てすぐにクラス担任を務めました。学校行事など、何も無いところからのスタートでしたので「学校を創ろう 自分を創ろう」をスローガンに毎日を過ごしたことが思い出されます。また、女子バレーボール部も創部し、3年目に大会出場を果たしました。とにかく中等部を創ってきたことが一番の思い出です。

わが子を信頼ある先生方に預けたいと思い、菅生学園初等学校に入学させました。当時は、放課後児童預かりがなく、理事長先生に「放課後預かっていただく環境があれば是非息子を入学させたい！」と何度も申し上げました。やがて放課後児童預かりの仕組みが出来上がり、私自身遅い時間まで仕事を頑張ってきた。そこではシルバーの先生方が息子たちに宿題や勉強を教えて下さり、他にも理科実験や昔遊びなどをして楽しい時間を過ごさせていただきました。その楽しかった思い出がきっかけで、今でも交流のある先生もいる程です。

### ③菅生学園の良さ

先生方の生徒に対する面倒見の良さや、先生同士が連携しているところです。また、自然に囲まれた落ち着いた環境であり、ゆっくりとした時間の中で過ごすことが出来ます。全体的にクラブ活動に専念している生徒が多く、純粋で、人懐こく、親近感が持てます。教員としては30年間働きましたが、先生方は学校をより良くしていこうという思いが強く、特に教員に卒業生が複数いるのは、温かくて帰って来たい学校だからだと思います。休日の部活動指導など苦勞も多くありましたが、女性の先生方には仕事と育児を両立している後ろ姿を見せたいと思って頑張ってきた。また、私自身も生徒の姿を見て色々なヒントをもらい、自分の子育てに役立てました。

### ④菅生の子どもたちに望むこと

今の子どもたちは目標を持たず、将来どうなりたいかを決めていないように思います。世の中の出来事に興味を持ち、多くの人と接して、自分の好きなことや気になることに関心を持って生活して欲しいと思っています。好奇心やチャレンジ精神を持って行動すれば、誰にでも可能性があると信じています。菅生の教育はしっかりと子どもの力を引き出せていて、当たり前出来ることを当たり前やれる基礎を身につけることが出来ます。今後は社会で必要なコミュニケーション能力や問題解決能力などを菅生学園生活でしっかりと身につけ、誰からも高く評価される人になって欲しいと願っています。

### ⑤学園の今後に望むこと

世の中もそうなのですが、生徒も教員も昔とはだいぶ変化しています。今後も菅生学園を発展させていくためには、伝統を守りつつも今の時代にあった教育が出来る環境を柔軟に取り入れていただきたいと願っています。

## 染谷 博文先生

### ①表彰にあたっての感想

大学の教育学部で理科を専攻し、卒業後はIT企業に3年ほど勤めた後に教員になりました。当時は情報の免許そのものがなく、理科の免許のみでした。その後、情報科の免許を取りました。当時菅生高校は先進的な教育をしており、以前から特別科目として「情報」がありました。30年ほど前に情報コースができていたので、コンピューター関係を教えてほしいということでした。「気づいたら30年」というのが正直な感想です。これまで他の先生が努力して改革されている姿を見てきたので、自分としてはコンピューターの分野で学校に貢献したいと考えています。

### ②菅生学園の思い出

初めて担任を持ったクラスのことを一番の思い出です。高校の情報コースは2クラスだけであまり入れ替わりがありませんでした。3年間持ち上がりだったので、当時の生徒一人ひとりをよく覚えています。今もクラス会で会ったりします。

### ③菅生学園の良さ

先生と生徒との距離の近さだと思います。生徒は気軽に話しかけてきますし、先生もやさしく丁寧に、とことん向き合おうとしています。これは菅生の伝統でもあると思います。

生徒は人懐こく、素朴なのが特徴です。また、いろいろなことに一生懸命であり、それは文化祭や体育祭で表れていると思います。体育祭は、前日の午後からすべて生徒が準備をします。予行演習もなくいきなり本番ですが、素晴らしい体育祭になっています。部活ごとに担当を決め、1年生は2年生や3年生の姿を見てやり方を受け継ぎ、体育祭を運営・実行していくのが菅生の伝統になっています。自分たちで自主的にやるという動きは、部活動を通して養われているところもあると思います。菅生祭の準備も、夏休み終了後、一か月もない中で生徒たちが主体的に行っています。菅生祭の特設Webサイトも、生徒会が自ら希望して始まり、制作・運営しています。

### ④菅生の子どもたちに望むこと

今は自分から動かないと何もできない時代なので、自主的に考えて動ける人になってほしいと思います。文章を書くのが得意とか、絵を描くのが得意とか、いろいろな特徴を持った生徒たちが自分をアピールできる場を、授業や部活、委員会活動を通して作ってあげて、自己肯定感を持てるようにしていきたいです。

### ⑤菅生学園の今後に望むこと

教員一人ひとりでは考えて行動していますが、それがシステムのではなく、属人的になっているところがあると思うので、システム的に取り組む体制にしてほしいと思います。私自身も、若い先生方に教えて広げて行きたいと思っています。

## (2) 合唱de歓喜 「第九」コンサート

＝恒例の第九コンサート 全校種で合唱に参加＝

毎年恒例となった年末の「合唱 de 歓喜」演奏会は今回で14回目となりました。

今回は東海大学菅生高校合唱部の生徒と菅生学園初等学校すがめき合唱団(3～6年生)の児童に加え、今年創部の東海大学菅生高等学校中等部合唱部の生徒も参加し、初中高が揃った形での出演が叶いました。

初等学校の児童も回を重ねるごとに曲の理解が深まり、ドイツ語(原語)の意味や表現についても考えながら歌うことが出できている児童が増えてきました。また中・高校生は第1部の難曲ロッシェニのスタバト・マーテルにも時間をかけながら取り組み、地域の合唱団と一緒に立派に演奏することができました。あきる野市の文化ともなったこの演奏会を、選曲から練習まで関わり成功に導いた村越大春先生には感謝申し上げます。

菅生学園初等学校 下野 祐輔

合唱de歓喜 演奏会 ベートーヴェン 交響曲第九番合唱付  
スタインウェイピアノ2台による フランツ・リスト2台ピアノ編曲版  
12月27日(土) 秋川キララホール

指揮 村越 大春

出演者 ピアノ：町田百合絵、遠山沙織、佐野隆哉、有吉亮治  
村越敦子(ソプラノ)、中野由弥(アルト)

渡辺大(テノール)、高橋洋介(バリトン)、「合唱 de 歓喜」合唱団

第一部 ロッシェニのフルコース：歌劇「泥棒かささぎ」序曲、  
グロリア・ミサ、「スタバト・マーテル」より合唱・オペラ  
アリア・歌曲

第二部 ピアノ2台によるリスト版ベートーヴェン 交響曲第九番合唱付



## (3) 第42回 菅生祭開催

10月4日(土)、5日(日)の2日間、第42回菅生祭が行われました。

菅生学園初等学校と東海大学菅生高等学校中等部は学習発表会として、学びの城校舎で学年ごとの展示作品や教科ごとの作品等が展示されました。2日目は学びの城体育館にて学年やクラブ活動での発表も行いました。学びの城のカフェテリアでは特別メニューが提供され、来場者を楽しませていました。

東海大学菅生高等学校では生徒会が菅生祭のWeb特設サイトを開設するなどしてPRしたことにより、たくさんの来場者を迎えることができました。また、今年は国際交流活動の発表も行われ、学園の今を伝える貴重な機会にもなりました。恒例の父母会による物販が行われるなど、学園あげでの取り組みに菅生学園の力を感ずることができました。



# 菅生学園初等学校・東海大学菅生高等学校中等部

## 校長メッセージ

＝森信三＝



布村 浩二校長

森信三は1992年96歳で亡くなるまで、実業家や教育者に多大な影響を与えた日本の哲学者であり教育者です。教員生活を経たのち、西田幾多郎や和辻哲郎の指導のもとで西洋哲学と東洋思想を学び、両者を統合する哲学体系として「全一学」を構想しました。全一学とは、宇宙の根源的な原理と人間存在のあり方、さらに日々の実践を一体として捉える学問です。

代表的な語録を紹介します。

### 「人生二度なし」

人生は一度きりであり、時間は戻らないことを実感し、与えられた命を全力で生きる覚悟を促す言葉です。単なる知識としてではなく、行動に繋げるといふ哲学の本質。

### 「学よりも行が先行する」

知識や学問の習得よりもまず行動や実践が先にあるべきだと強調する言葉。学びは日々の実践によってのみ意味を持つことを示しています。

### 「立腰を以て自己の精神を高めよ」

身体の姿勢を正すことは精神の自立を促すこと。身体を整えることと心の成長は不可分であるという教育哲学の象徴的な表現。

### 「凡事徹底」

どんなに小さなことでも手を抜かず、全力で徹底的に行うことの重要性を説く言葉で、日常の細部にこそ人間性と精神力が問われる。

彼が強い影響を与えた人に、パナソニック創業者の松下幸之助や京セラ創業者の稲盛和夫がいます。

2025年後半から日本は立ち上がり、2050年には日本が世界でまた強く輝くだろうと、33年前に亡くなった彼が予言していたそうです。

## 菅生学園初等学校

### トピック

#### トピック 「マラソン大会」実施

1月29日(土)に恒例のマラソン大会が行われました。今年は2年ぶりに学校を飛び出し、あきる野市内にある都立秋留台公園陸上競技場で行われました。学校と違い、何より平坦で安全なコースです。また、レースの全てを他の学年の児童や保護者が観戦できます。たまたま通りかかった市民の皆様からも大きな声援をいただき、全員が最後まで走りきることができました。お天気にも恵まれ、よい思い出がまた一つできました。



#### トピック 「もちつき大会」実施

1月10日(土)、これまた毎年恒例のもちつき大会が行われました。父母の会主催の行事で今年は40名以上の父母の参加がありました。1年生から6年生まで全ての児童が5回ずつ突きました。つきたてのお餅は格別で、きなこ・海苔・あんこ・ごま塩などいろいろな味を楽しみました。日本の伝統文化の体験・継承の観点からも継続していきたい行事です。ご準備・ご協力をいただきました父母の会の役員・会員の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。



## 9～12月活動報告

9/ 1 始業式・避難訓練・引き渡し訓練	10/ 4～5 菅生祭	11/15 第2回入学試験
9/ 6 授業参観	10/ 8 TGG 英語体験(3・4年生 立川)	11/16 東京都初等学校協会 音楽祭
9/10 TGG 英語体験(5・6年生 青海)	10/10 開校記念日	11/23 東京都初等学校協会 体育発表会(サッカー大会)
9/13 入試チャレンジ	10/20 6年生校長面談	11/29 マラソン大会
9/16 首都圏模試	10/24 6年生漢字検定	12/ 6 焼き芋大会・凧揚げ大会
9/19 特別活動 研究発表会(研究授業)	10/29 ハロウィーンディ	12/ 8～ 個人面談週間
9/27 スッガニアオータム(募集活動)	11/ 1 第1回入学試験	12/20 終業式
10/ 1～ 6年生三者面談		

## 1～3月活動予定

1/ 8 始業式	1/22 第3回避難訓練	2/28 6年生を送る会
1/ 9 身体測定	1/23 漢字検定(1～5年生)	3/ 5～12 個人面談
1/10 もちつき大会	2/ 5 東初協一斉研修会	3/ 6 別れ遠足(国営昭和記念公園)
1/14 書き初め大会	2/ 7 入学児保護者会	3/16 卒業式
1/16 英語検定(2～6年生)	2/19 劇と音楽の会(福生市民会館)	3/17 修了式
1/17 オープンスクール・給食試食会	2/24～3/2 授業参観日(保護者会)	

## トピック

### AI - STREAMM授業

東京大学伊東乾教授をお招きしての特別授業 AI - STREAMM 授業を行いました。

中等部1年生は ChatGPT を活用して俳句を詠みました。①俳句の生成 AI にアシスタントさせて俳句を作る「○○(テーマや季語)を使って俳句を作って」と依頼する。②自分で好きな方言を選ぶ。(同じ方言の生徒が他にいたらやり直し、できるだけ珍しいものを選ぶ)方言に和文和訳した俳句を作る。③さらに自分の詠んだ俳句をイメージする絵を ChatGPT に依頼して描きました。生徒たちは ChatGPT との対話を楽しみながら俳句を作成しました。伊東先生から「最終的な選択や洗練は人間の感性で行うことが大切です。」と締めくくられました。

中等部3年生はマスキングテープとひもだけを使い、グループごとに様々な大きさのピラミッドを作りました。ピラミッド作りは土台となる正方形を作ることが難しく、ヒモを使って円を作り、これをもとにマスキングテープを使って床に正方形を作りました。土台となる正方形の各頂点からひもを張り、ピラミッドが完成しました。難しい内容でしたが、先生方のアドバイスをいただき、楽しく行うことができました。



### 東京グローバルゲートウェイ

10月30日(木)中等部3年生は東京グローバルゲートウェイ(立川)を訪問しました。東京グローバルゲートウェイ(立川)は、2023年1月、東京・立川にオープンしました。「環境」「プログラム」「イングリッシュスピーカー」の3つの特長を最大限に活かし、日本にいながら海外の雰囲気と未来を感じさせる空間の中で、英語を体験し学ぶことのできる施設です。アクティブイマージョンエリアでは、空港や機内、ホテル、レストランなど、海外旅行を想定した環境が再現されています。

生徒たちは、外国人スタッフと英語でコミュニケーションを取りながら、実践的な英語を学びました。チェックインやオーダーの仕方など、実際の場面を想定した会話練習ができました。グローバルステージでは、英語でのディベートやスピーチなど、より高度な英語表現にチャレンジしました。「火星での生活を考えよう」をテーマに火星での暮らしがどのようになるかを学び、想像を巡らせグループで話し合いをしました。中等部の生徒たちはお互いに協力しながら、グローバルな課題について英語で議論することができました。これらのプログラムを通じて、生徒たちは楽しみながら実践的な英語力を身につけ、同時に国際感覚や異文化理解を深めることができました。また、普段の学校生活では経験できない、ユニークな英語学習の機会を得ることができました。



## 9～12月活動報告

9/ 1	避難訓練	10/ 9	芸術鑑賞教室	11/ 5	夢育て講座
9/ 3	北海道修学旅行 3泊4日	10/10	開校記念式典	11/ 8	保護者会(1、2学年)
9/ 8	塾対象説明会(ホテルエミンシア東京立川)	10/15	校内主張大会	11/15	第3回学校説明会
9/13	第2回学校説明会	10/18	第1回入試体験教室	11/26	警察講話(2、3学年)
9/30	学期更新式	10/24	生徒会役員選挙	12/13	第2回入試体験教室
10/ 4～5	菅生祭	10/30	郷土学習(1学年)	12/19	音楽祭
10/ 8	スポーツ大会		TGG 立川：校外学習(3学年)	12/20	全校集会

## 1～3月活動予定

1/ 7	全校集会	2/ 6	第4回入試(午前)	3/26	新入生招集日
1/ 9	GTEC②③	2/11	入学準備説明会		
1/10	第4回学校説明会	2/25～27	学年末試験		
2/ 1	第1回入試(午前・午後)	3/12	野鳥観察会②, 卒業遠足③		
2/ 2	第2回入試(午前・午後)	3/15	中等部卒業式		
2/ 4	第3回入試(午前)	3/19	修了式		

### =創造的なキャリアにいつでも夢を=



大山 敏 校長

今から20年前、小説家・村上龍が『13歳のハローワーク』を刊行したのは衝撃でした。この本には数百種類の仕事分野別に紹介されているのですが、「何も好きなことがないのがっかりした子のための特別編」として、アニメが好き、ゲームが好き、何もしないで寝ていることが好き、な子へのお勧めの仕事にまで言及していたのです。

なるほど、既存の職業の大半は学者の予言通り、いずれはAIに取って代わられるのかもしれない。それなら、夢を実現するためのキャリアの積み重ねは無意味なのか。村上龍は、自分の好きな仕事・自分に向いている仕事で人生を送っている人と、そうではない人と、この世の中には2種類の大人しかいない、と述べています。自分の好きな仕事があれば創り出せばよい。本校では、アントレプレナーシップを原動力とする創造的なキャリア形成を支援していきたいのです。生徒が自分の進路を探すことを、悩みではなく楽しみにできるように。

### トピック

#### 2025医難キャンプ実習

10月31日、医学・難関大コース、高校1年生クラスは近隣のキャンプ場「わんだフルネイチャーヴィレッジ」でキャンプ実習を行いました。キャンプ場に着き、テントの設営を開始すると雨が降り始めました。雨の予報だったせいか、他のお客様はなく、キャンプ場は我々の貸し切り状態でした。そこには大きな炊事棟があり、その中で雨に濡れずにバーベキューの夕食を楽しむことができました。夜も更けテントに戻り、眠りにつこうとしたのですが、男子生徒のテントが、雨水を防ぐグラウンドシートを敷くのをお忘れしており、テントの床が濡れていました。他のお客様がいなかった幸運もあり、男子生徒たちは炊事棟の1室で泊まることができ、難を避けることができました。朝起きると雨はすっかり上がり晴天になっていました。朝食を外で楽しみ、撤収後、帰途につきました。あいにくの雨でしたが、短い時間を自然の中で過ごし、リフレッシュすることができました。



#### 大会・コンクール結果報告

- ・チアダンス部 第25回全日本チアダンス選手権大会 決勝大会第4位(7チーム中)
- ・卓球部 全日本ジュニアの部東京都予選会ベスト8 1年8組 国分琉斗, 東京都新人卓球大会第3位 関東選抜大会出場決定
- ・吹奏楽部 第65回東京都吹奏楽コンクール金賞受賞
- ・美術部 第21回世界絵画大賞展クサカベ賞受賞 2年10組 橋本秀一
- ・第7回全日本U21アルティメット選手権大会優勝 2年S1組 今田仁子, 日本代表としてアジア・オセアニア選手権にも出場
- ・弓道部 東京都秋季大会女子個人優勝 3年5組 古谷桜子

#### 9～12月活動報告

10/1	体育祭	11/6	3学年学園高大連携総合試験	11/29	帰国子女入試
10/4～5	菅生祭	11/7	付属選抜小論文試験	12/16～19	定期考査D
10/10	開校記念式典	11/15	第5回学校説明会		
10/18	第4回学校説明会	11/22	第6回学校説明会		
10/28～31	定期考査C	11/25～29	進学コース修学旅行沖縄		

#### 1～3月活動予定

1/7	全校集会、3学年登校日	1/23	2学年公務員ガイダンス、 第3回校内漢字検定	3/3	3学年登校日
1/8～23	3学年1月特別講座	1/28	マナー教室	3/5	卒業式予行
1/14	2学年小論文講演会	2/4	1、2学年小論文模試、第2回授業公開	3/6	卒業式
1/16	第3回校内英語検定	2/5	1、2学年学園基礎学力定着度試験模試	3/8	新入生登校日
1/19	3学年登校日	2/6	1学年現代文明論研修会	3/12	2学年大学専門学校個別相談会、 国公立私立大学一般選抜ガイダンス
1/20	2学年看護医療系ガイダンス	2/9	入試準備	3/18～24	基礎学力定着度試験対策講座
1/21	推薦入試準備	2/10	第1回一般入試	3/21	修了式
1/22	推薦入試(自宅学習日)	2/11	第2回一般入試	3/28	新入生登校日
		2/16～3/2	学年末考査		

## 菅生 STEAMチャレンジ (13)

東海大学菅生高等学校中等部では、STREAMM 授業として教科横断型の授業を行っています。従来の STEAM 教育に音楽の要素も加えた取り組みで、今年度は東京大学大学院情報学環教授の伊東乾先生とその研究室の皆さんによる AI - STREAMM 授業を行いました。(詳しい様子は本紙菅生高等学校中等部トピック欄をご覧ください。)

社会の急激な変化や急速な技術革新によって要求される能力が高度化する中、菅生高等学校中等部では、予測不能な未来に臆することなく向かう生徒たちを育てるために、先端的な技術も活用しながら、積極的に先進的な学びに取り組んでいます。その1つが生成 AI の活用です。今後、大学や社会においてますます利用が広がる生成 AI との共生に向けて、生成 AI の使い方だけでなく、リスクと可能性も知り、活用リテラシーを学んだ上で授業で活用しています。安心して学べるよう、プライベート生成 AI の環境も整えています。

STREAMM 授業を通して、先端技術を知って活用できるようになるだけでなく、生徒の好奇心を刺激し、主体的に学ぼうとする意欲の醸成にもつながっています。

菅生高等学校中等部では、医学・難関大コーススタート時より STEAM 教育に取り組み、プログラミングやデータサイエンス教育に取り組んできました。今後もさらにプログラムをブラッシュアップさせながら、生徒の「未来を生き抜く力」を育んでいきます。



## 菅生のひとこま (13)

皆さんは新しくなった学びの城のベンチをご覧になりましたか。学びの城の駐車場横のベンチが老朽化し、これを菅生学園初等学校の児童がリニューアルしました。

初等学校の指導をされている東海大学藤吉正明教授の研究室の学生が製材してくださった板に、初等学校のゆたか委員会と掲示委員会の児童が生き物を描きました。描いた生き物は、藤吉先生が生物多様性の指標として設定した20の生き物から選びました。

出来上がった板の取り付けは用務員の阿部さんが手伝ってくださいました。初めての電動ドリルを使った作業に、最初は戸惑った児童もいましたが、すぐに慣れて木ねじを打ち込むことができました。

春にはベンチの周りにたくさんの桜が咲きます。新しくなったベンチでお花見をしてはいかがでしょうか。



# 父母会・同窓会長新年メッセージ

## 菅生学園初等学校



菅生学園初等学校  
父母の会  
藤本 聖会長

新年明けましておめでとうございます。

菅生学園初等学校は2007年に開校し、今年度で19年目となります。その間、菅生学園の中高各校には多大なるご協力を賜りましたことにまずは厚く御礼申し上げます。これまで父母の会の活動を支援していただきました学園、教職員、歴代役員の皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、ここ数年会員数も増え、父母の会の活動は大変活発になってまいりました。5月の運動会は年々内容が充実しており、特別活動(学校行事)発表の絶好の機会となっております。父母の会では、受付や駐車場の整理・誘導、子ども達の水分補給等でお手伝いさせていただきました。また、マラソン大会は2年ぶりに都立秋留台公園陸上競技場での実施となりましたが、子どもたちが安全に走れるよう父母の会としても最大限のサポートをいたしました。保護者も良い思い出がまた1つできました。

例年の餅つき大会も1月に行いました。今年も3台の臼がフル稼働しました。これまた子どもたちの思い出づくりの一助となれば幸いです。活動内容は今後とも広報誌「えがおのすがお」で年5回のペースでお知らせいたします。

これからも学校法人菅生学園の一員として、その一翼を担っていただけるよう学園の事業に奉仕してまいります。旧倍のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 東海大学菅生高等学校・中等部



菅生高等学校・中等部  
父母の会  
峰村 眞美会長

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、保護者の皆様ならびに学園関係者の皆様におかれましては、父母の会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

父母の会では、研修・行事・広報の各委員会が連携し、学校行事や日々の教育活動を支える取り組みを行ってまいりました。生徒が仲間とともに学び、挑戦し、成長していく姿を間近に感じられたことは、私たち保護者にとっても大きな喜びであり、貴重な経験となりました。

本年も、東海大学菅生高等学校・中等部が、生徒一人ひとりにとって安心して学び続けられる場であり続けるよう、父母の会として学校と連携し、微力ながら支援に努めてまいります。

結びに、新しい年が学園に関わるすべての皆様にとって、健やかで実り多き一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

## 東海大学菅生高等学校同窓会 菅生川蝉会



菅生川蝉会  
青木 龍太会長  
(3期生)

新年あけましておめでとうございます。☑菅生同窓会川蝉会 会長の青木龍太(3期生)です。日頃より同窓会活動へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

東海大学菅生高等学校は開校以来、19,000人を超える卒業生を送り出してきました。現在は43期生が在籍し、1期生もまもなく還暦を迎える年齢となりました。創立50周年の節目まであと7年。これまで母校を支えてくださった先生方、そして卒業生の皆さまのご尽力に、改めて深く感謝いたします。

2025年10月の菅生祭では、昨年に続き2回目となる川蝉会ブースを設置し、同窓会の再登録の呼びかけを行いました。多くの卒業生が立ち寄ってくださり、懐かしい再会や新たなつながりが生まれる場となりました。

また、2026年2月14日には「新年交歓会・成人を祝う会(39期生)」を開催いたします。23期生でモノマネタレントのちなっぴーさんをゲストに迎え、世代を超えて交流を深める会を準備中です。

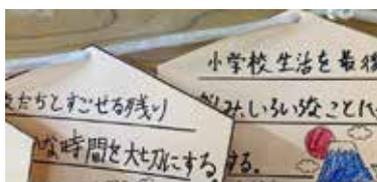
今後は「菅生マップ」づくりやホームページの充実を図り、卒業生の紹介や、退職された先生方の近況など、「同窓生が知りたい今」を発信してまいります。

本年も皆さまの温かいご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます

## 編集後記



菅生学園初等学校では今年も書初めが行われました。



菅生学園初等学校の絵馬には、6年生児童の、残り少ない初等学校での日々を愛おしむ思いが伝わっていました。

明けましておめでとうございます。旧年中は広報紙制作に関して大変お世話になり、ありがとうございました。本年も皆さまのご協力を得て、新年号を発行することができました。

今年の干支は「丙午」。丙午は、「情熱と行動力で突き進む」「燃え盛るようなエネルギーで道を切り開く」ということの象徴だそうです。情熱を持って絶えず挑戦し、創造性ある学園を目指して、また新たな一歩を踏み出していきたいと思います。

本年もどうぞよろしく願いいたします。